


兵庫県内経済情勢報告 (令和7年1月判断)

1. 総論

【総括判断】「緩やかに持ち直している」






項目	前回 (6年10月判断)	今回 (7年1月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

(注) 7年1月判断は、前回10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回 (6年10月判断)	今回 (7年1月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	
設備投資	6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	6年度通期は減益見込みとなっている	6年度通期は減益見込みとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

ショッピングセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

コンビニエンスストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、インバウンド需要の増加などの要因から、さらに増加率は前期よりも上昇している。

ドラッグストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、物価高による買い控えなどの要因から、増加率は前期よりも下降している。

ホームセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、気温が高かったなどの要因から、増加率は前期よりも下降している。

家電大型専門店販売額は、前期は前年を上回っていたものの、今期は前年を下回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

宿泊施設では、稼働率は前期よりも上昇している。

これらのことから、個人消費は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- インバウンド売上が鈍化しているものの、気温の低下等に伴い衣料品等の販売が好調であったほか、年末年始の大型連休にも支えられ、全体として売上は伸長している。(百貨店)
- 野菜や米の値段が上昇しており、節約志向による買い控えが見られる。(スーパー)
- 国内客売上が堅調なほか、インバウンドが引き続き増加基調にあり、売上も前年を上回って推移している。
(ショッピングセンター)
- 観光地を中心にインバウンド需要が徐々に増加している。(コンビニエンスストア)
- インフルエンザ等の流行により、医薬品の需要は高まっているものの、全体として物価高による買い控えが見られる。
(ドラッグストア)
- 夏に防災用品が好調であったことによる反動減のほか、気温が高い日が続く、暖房器具や園芸用品が不振であった。
(ホームセンター)
- スマートフォンが好調であったほか、エアコンや加湿器等の季節性商品もよく売れた。また、高価格帯の理美容家電が売れる傾向も見られた。(家電量販店)
- 問題なく生産できており、売上は堅調に推移している。(自動車販売店)
- 国内外ともに利用客は堅調に推移している。(宿泊)

■ 生産活動「緩やかに持ち直しつつある」

鉱工業指数（生産）は、「食料品」や「化学」等が低下しているものの、「生産用機械」や「輸送機械」等が上昇している。また、企業からは、引き続き中国向けで回復が見られないといった声がある一方、半導体向けやデータセンター向けが増加しているといった声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 一般産業用向けでは、中国での景気減速により在庫調整の段階となっているが、半導体製造装置向けでは、米国を中心に受注が増加しつつある。（**生産用機械**）
- 旺盛な旅客需要に支えられ、引き続き好調に推移している。（**輸送機械**）
- 消費者の節約志向に伴う買い控え等により、当社製品の需要が減少傾向にある。（**食料品**）
- 中国や欧州における自動車メーカーの不振により需要が減退している。（**化学**）
- 現状変化はないが、主要取引先において業績が悪化しており、今後影響が生じる可能性がある。（**金属**）
- 自動車向けの需要が芳しくない。（**鉄鋼**）
- データセンター向け等の需要は堅調に推移している。（**非鉄金属**）
- 北米を中心にデータセンター向けが好調となっている。（**汎用機械**）
- 国内外からの案件に対応するため、生産体制は高水準で推移している。（**電気機械**）

■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和6年11月の有効求人倍率は、受理地別では1.00倍、就業地別では1.14倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIについて、全産業の現状判断は、令和6年10～12月期調査では29.0%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

これらのことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 最低賃金の引上げや年収の壁見直しなどにより、求人・求職側双方に様子見姿勢が継続している。(公的機関)
- 利益水準を保つため増員を控え、人件費を抑えている状況。(繊維)
- 業種に限らず、全般的に人手が不足している。(化学)
- 製造部門で不足が生じている。(非鉄金属)
- 現場監督の人材が特に不足している。(建設)
- 定年退職者も出ており店舗スタッフに不足が生じている。(金融、保険)
- 営業職で不足が続いている。中途採用の活用や、給与水準の引き上げのほか、セールスアシスタントとして派遣社員を活用している。(卸売)

■ 設備投資「6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和6年10～12月期調査)でみると、6年度通期の設備投資は、製造業では「鉄鋼」、「化学」等が前年度を上回っており、非製造業では「運輸・郵便」、「不動産」等が前年度を上回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

■ 企業収益「6年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和6年10～12月期調査)でみると、6年度通期の経常利益は、非製造業では「運輸・郵便」等が増益見込みとなっているものの、製造業では「輸送用機械」等が減益見込みとなっていることから、全産業では「減益見込み」となっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和6年11月、後方3ヶ月移動平均）で見ると、前年を上回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和6年12月、年度累計）で見ると、前年を下回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和6年9～11月、3ヶ月平均）で見ると、輸出は、建設用・鉱山用機械、半導体等製造装置等が減少していることから、前年を下回っている。
なお、輸入は、前年を上回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和6年10～12月、3ヶ月平均）は、前年を下回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和6年10～12月期調査）の景況判断BSIで見ると、現状判断は「下降」超となっている。
先行きについては、全産業で見ると、令和7年1～3月期、令和7年4～6月期いずれも「下降」超で推移する見通しとなっている。

【問い合わせ先】

神戸財務事務所 財務課
TEL：078-391-6942